

高齢感染者の至れり尽くせり

もう目新しい話題ではなからうが、新型コロナウイルスに感染した。ワクチン接種は4回済ませていたものの、感染予防に熱心だったと言いが難い。それでも、電車やバスに乗ることはほとんどなく、歩いて通う事務所との行き帰りでもなるべく人混みを避けるようにはしていた。

我が家で最初に感染したのは僕らしい。妻が先に発熱し、かかりつけの診療所に受診してコロナ陽性と診断。その前日に僕は喉のむずがゆさを感じており、翌晩から、つまり妻を同日に自分も38℃を超える発熱に見舞われた。検査を受けると感染が判明。夫婦揃ってのコロナ感染となつてし

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。

まった。妻には医者からの指示で薬局から5日分の薬が届けられる。ところが、1日遅れで診療所に行った僕には病院で渡された薬は3日分。医師が言うには誰かが薬を買い占めているらしく、渡せる薬はこれだけで、薬局にも薬が無いという。

しかし、我が国の高齢者夫婦の感染者に対するケアは至れり尽く

せりだ。感染が分かると翌日に診療所を介して知らされた携帯電話に保健所から電話が入る。発熱した日や現在の体調を詳細かに問診され、併せて血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメーターを送るので体温測定と合わせて毎日報告するようにと指示を受ける。さらに、買い物にも出られないからと食料品も送りますとのこと。こうした対応は高齢者だけのものかもしれないが、ありがたく支援を受けられることにさせていただいた。

とはいえ、厚労省が開発した「新型コロナウイルス健康状態入力フォーム(MYHERSYS)」に入力してくださいと指示されたが、これがIT音痴の高齢者にはチンプンカンプン。入力フォームに入る方法が分からない。入国外国人を考慮して英文表記されているのだろうが、そもそも英文で表記されていてそれだけで動転してしまう高齢感染者もいるはず。よく見るとあらゆる言語に対応できるようになっている。それで日本語対応にすると、「HERSYS」が「彼女-SYS」などと出てきますます何の意味も分からなくなる。いろいろ考える

うちに「HER」とは彼女ではなく、「新型コロナウイルス健康状態入力フォーム」の英文表記の頭文字による略称であることを了解した。それでもいざ入力しようとIDの数字を確認しようとして前の画面に戻ると入力画面が消えてしまう。僕のような高齢者はこれだけで切れてしまうのだ。ましてや熱に浮かされて頭が働かない状態。そんなことを繰り返しやると体温と酸素飽和度測定器で数値を確認して入力。

段ボール2箱の食料品を開けてみると、レトルト食品とチンご飯のパックが多数。それ以外にもお湯を注ぐだけで食べられる食品が幾つも入っている。二つ目の段ボールにはお菓子がいっぱい。妻が病院に行った際に当面必要そうな食材を買い求めているので東京都の好意にはまだ手を付けていないが、我が家の非常食として大事にさせていたのだとともに孫のおやつには困らなくなる。

すでに発熱後2日目には平熱になり、体調も問題ない。お前がやるべきことはたくさんあるはずだと怒られると思うが、あと2日の自宅待機の中でのんびりこの原稿を書いた。